

地域活動支援センターとぽすの "クリーンカンバック 大作戦!"

地域活動支援センターとぽすでは、月に1度『クリーンカンバック大作戦』と題して、近隣地域の清掃活動をしています。この活動は、
“住みやすい街づくりをしてきている一宮市に感謝の気持ちを込めて、私たちにできることをしよう”という目的で始めました。
この想いに賛同していただいた、とぽすの利用者さんと一緒に活動をはじめました。



近所の方から「ご苦労さま」と声をかけて頂いたり、きれいになると達成感があり、気持ちもすっきりします。まだまだ小さな活動ですが、今後も仲間が増えることを願って続けていきたいと思っています。
おそろいの緑のステッカーを付けて清掃している姿を見かけたら、気軽に声を掛けてくださると嬉しいです。そして、お時間があればぜひ参加してみてください。
一緒に一宮市を日本一キレイな街にしましょう!

ドクター 講演記

2年ほど前から行ってきた地域での医療講演会。いつもは院内で診療をしている医師が講演を希望されている地域へ出向き、それぞれのテーマで医療講演を行っています。
最近では、一宮市内の連区だけではなく、その他の団体や企業からの依頼も多くなってきました。一宮西病院では、そのような依頼にできるだけ多く応えたいと考えています。医療講演をご希望の団体・会社・集まり等がございましたら、**一宮西病院広報担当**までお気軽にご連絡ください。



心臓血管外科副部長
星野医師 7/7

小信中島つどの里では心臓血管外科副部長の星野医師から「血管の病気と予防について ～大動脈から抹消血管まで～」というタイトルで、血管で起きるさまざまな病気や障害などについて、星野医師の優しい口調に終始和やかな雰囲気でした。



脳神経外科部長
宮崎医師 7/18

はじめて訪れる富士連区には脳神経外科部長の宮崎医師。脳出血・脳梗塞やくも膜下出血の原因などを説明。当院で行われている血管内治療や予防についてもお話ししました。宮崎医師のお話はわかりやすい!と好評です。



副院長 兼 内科部長
森医師 8/1

奥公民館では、昨年台風のため、延期となっていました副院長 兼 内科部長の森医師の講演。胃がんのお話や早期発見につながる、鼻からの経鼻内視鏡などについて。すい臓がんは、アップルの元CEO故スティーブ・ジョブズが亡くなったことで話題になりました。通常は見つかりにくいすい臓がんも一宮西病院の超音波内視鏡で見つけることが可能というお話も!

8/26 副院長 兼 心臓血管外科統括部長
小柳医師

三条の三睦会8月例会では、副院長 兼 心臓血管外科統括部長の小柳医師が、健康についての食生活や、動脈硬化など血管の病気を未然に防ぐ生活習慣などについてお話ししました。



8/30 循環器内科部長
大野医師



大徳連区では初めての講演会。尾西庁舎6Fホールで。いつも穏やかな大野医師の説明に、医療講演は初めての大徳連区の方々も興味深い反応でした。



アプリコット通信 vol.15

一宮西病院と蘭州市第一人民医院が 提携病院として調印いたしました。



一宮西病院 森昭裕副院長(兼 内科部長)が一昨年、世界消化器内視鏡学会で権威ある研究賞を受賞しました。それをきっかけに、中国蘭州市第一人民医院から招聘され、技術指導を行ってきました。今回、**一宮西病院と蘭州市第一人民医院が提携病院として技術指導を含め交流を深めていくことが決定し、その調印が行われました。**一宮西病院 上林弘和院長は蘭州市第一人民医院名誉院長、森昭裕医師は消化器内科名誉教授の称号をいただきました。今後は毎年両病院間で医師やスタッフを派遣しあい、技術研修や病院運営の分野での研修、交流が行われることになりました。



劉医師が
北京空港まで
お出迎え

一宮西病院 院長
上林 弘和 医師

蘭州市第一人民医院 副院長
劉 医師

一宮西病院
副院長 兼 内科部長
森 昭裕 医師

森医師(中央)と蘭州市第一人民医院 副院長の劉医師(右)。森医師と共に中国での経鼻内視鏡を使用した診療に力を入れています。

上林 弘和院長は「第一人民医院名誉院長」、森 昭裕副院長は「第一人民医院消化器内科名誉教授」の称号をいただきました。



一宮西病院

〒494-0001 愛知県一宮市開明字平1番地
TEL:0586-48-0077
<http://www.anzu.or.jp/>

ブログ、更新中～

あんずふるく 検索



<http://kyoryokai.blog48.fc2.com/>

駐車場
600台
完備



ステントグラフトの 施設認定を取得しました！

この度、一宮西病院 心臓血管外科が『胸部ステントグラフト』および『腹部ステントグラフト』実施施設の施設認定を取得しました。

ステントグラフト治療は、最新の技術でもあり、日本でステントグラフトの使用が公認されてからの期間も短いため、安全・確実に実施できる病院は限られています。

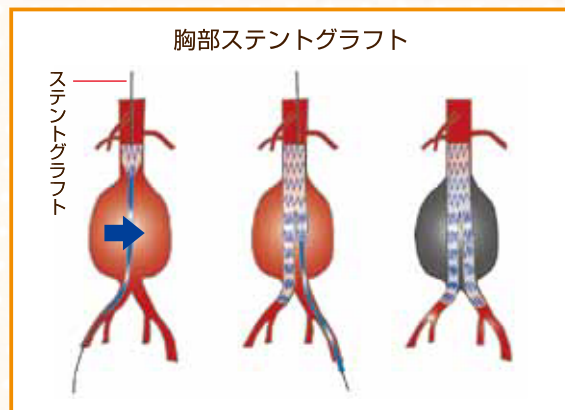
ステントグラフトとは、従来から行われている「動脈瘤を切除して、人工血管で置き換える手術」とは異なり、動脈瘤をその内部から「内張り」することで、動脈瘤にかかる圧力を減少させて、破裂を防ぐ方法です。

具体的には、足の付け根の血管や肘の血管からステントグラフトと呼ばれる、コイルが付いた人工血管を内蔵したワイヤーを挿入し、動脈瘤の部位でステントグラフトを広げ、動脈瘤を内張りするというものです。

ステントグラフト治療は最新の治療法であり、患者さんの身体に与える負担が軽減され、また入院期間も短くなることで注目されている治療法です。

当院では、治療経験豊富な医師により、動脈瘤の適切な診断のもと、最善の治療法を患者さんと一緒に考え、選択していきます。

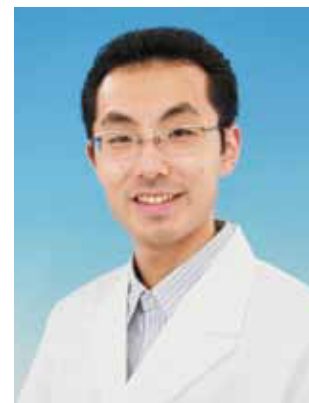
第一例目の手術が行われました。



呼吸器
内科

宇賀神先生の学会発表の内容が
アメリカの医療雑誌

“PULMONARY REVIEWS”
に掲載されました！



呼吸器内科医長

宇賀神医師の外来診察は毎週火曜日、土曜日、および第1,3,5水曜日の9:00~12:00です。

呼吸器内科医長の宇賀神 基医師が今年5月、アメリカで開催された学会で肺炎に関する発表をしました。「非常に簡便な肺炎の重症度評価」という内容で、過去に誰も提案していないものでした。その内容がアメリカの医療雑誌『PULMONARY REVIEWS』に掲載されました。

『PULMONARY REVIEWS』は、肺の専門医師に向けたアメリカの月刊医療雑誌で、肺や気道にまつわる疾患の情報を多くの医師に提供しています。掲載記事内容は喘息、ARDS、肺炎、インフルエンザ、敗血症、肺気腫、慢性気管支炎、睡眠時無呼吸症候群、肺癌、および肺塞栓症など、呼吸器疾患に関して幅広くカバーしています。



乳がんの最新治療

にゅうぼうさいけん

乳房再建をご存知ですか？

一宮西病院では先日、「乳房再建」の1例目の手術が行われました。乳房再建とは、乳がんの切除手術などで失われてしまった乳房を再び、取り戻す方法（できるだけ元の形に復元すること）です。がん治療の結果として、命は助かったものの、身近で大切な臓器のひとつである、乳房を喪失する女性の哀しみは言葉にならないほどだと思います。

乳房再建は、命を救うだけではなく、術後の生活の質を、精神的にも外見的にもできる限り手術前の状態に戻すことが可能です。一般的に「乳がんになったら手術で胸がなくなってしまう」とお考えの女性の方が多いと思います。今回、乳房再建を受けたKさんもはじめはそうでした。違和感を感じながらも、半年も病院に行かなかった自分を責め、泣かない日はなかったと言います。しかし、当院で乳房再建ができるという事実を知り、ご自分でネットなどを駆使して乳房再建について調べました。とにかく元の生活に戻りたい、温泉などにも今まで通り気兼ねなく行きたい、という思いで8時間に及ぶ手術に臨みました。

1か月後、Kさんは笑顔を取り戻しました。

Kさんはまだ30代。傷もほとんど目立たず、乳房もほとんど元通りです。

現在は抗がん剤治療に元気に通っています。「もうすぐ仕事にも復帰できるし先生方に本当に感謝しています。生活もほとんど以前と同じです。夏には海にも行きましたよ！」と笑顔で語ってくれました。

当院外科と藤田保健衛生大学・形成外科がチームとなり乳房再建を行っています。

乳房再建の希望がある、または考えてみたいと思われる患者さんは乳がん手術前に乳腺・内分泌外科の担当医に相談してみてください。

また、乳がん手術が終わった後に、乳房再建の話を聞いてみたい場合にもぜひ相談してください。

※乳がんの治療については進行度や腫瘍の位置、などで異なります。

乳房再建もさまざまな方法があります。ご希望の方は医師とよく相談してください。



乳房再建の治療に
前向きに専念した
Kさんのお話です

新任ドクターの
ご紹介

呼吸器外科部長

波戸岡 俊三 医師

はとおか しゅんぞう



【出身大学】産業医科大学（昭和62年卒）
【主な資格】日本呼吸器外科学会 専門医
日本外科学会 専門医 指導医
日本食道学会 食道科認定医 食道外科専門医
日本胸部外科学会 認定医
日本がん治療認定医機構 暫定教育医
【前 職】愛知県がんセンター胸部外科

Message

病気だけでなく患者さんの全体を診て、患者さんの為になる医療を常に考えます。肺がんの手術で最も大切なことは、外見の美しさよりも胸の中でいかに精細精緻な手術を行うかです。精細精緻な手術により、進行がんでも治る可能性が十分ありますし、早期がんではより合併症を少なくします。

がん治療の拠点である「愛知県がんセンター」で20年にわたり第一線で胸部外科医として活躍されてきた波戸岡先生が、一宮西病院に赴任され呼吸器外科を開設いたしました。波戸岡先生の胸部手術は「腋窩開胸」と言い、腋の下を10~15cm垂直に切開し行われます。この開胸法で術後の痛みを和らげ、手術創が見えにくいよう整容的な配慮がされています。早期の肺がん・縦隔腫瘍・気胸などの患者さんには胸腔鏡手術を行います。胸腔鏡手術は、より身体への影響を少なくする目的で、胸の中にカメラを入れて、小さな手術創で行います。



波戸岡医師の
着任に伴い、8月より、
呼吸器外科を開設
いたしました！

院内ボランティアさん活躍中！

一宮西病院では現在、病院ボランティアとして大前さん（写真右）、岩下さん（写真左）のお二人が活躍されています。気持ちのよい挨拶と明るい笑顔で、外来患者さんのお手伝いをして頂いてます。お二人を見かけたら、ぜひお気軽にお声を掛けて下さいね。

主な活動内容

- 院内の各受付までのご案内
- 車椅子ご利用の方の介助・サポート
- 入退院時のお荷物の運搬のお手伝い…など

担 当
連絡先

ボランティア募集中

病院でお手伝いしていただけるボランティアを募集しております。ご興味のある方はぜひご連絡ください。

経営企画室 川添・小椋
0586-48-0077(代)

